

裏面白紙

しにの解
て貴際を本
來し當求件
た、方めに
“同かる關
日らたし
午提め、
後出往本
、し訪二
公たし十
務書た五
員き。日、
課も会、
かの議各
らはの省
電別要次
話添旨官へ
で第はは昭連
別二別、和絡
添号添總ニ調
第の第司四整
三通一令ニ事
号り号部ニ添
のでの公五局
通あ通務一
りるり員
、”で課
回こ、の
答れそ了

裏面白紙

（別添第一号）給與の調整措置に関する会談要旨 昭和二十四年一月二十五日

出席者　　日總本司側令部

し、先
得併の甚即そ
なしじだちの石
いか持し多結
「か出き數果
但るしはのは
し結と數も重
々果を百の大
のはる円はな
中當。、給る
如然、數與問
何と、拾水題の
に豈てばも當
不然で、合
理、法律の
もの、を勵
生行上や。
ことを

し、各
受各
受けを
るは旨連
給新を調
與給書第
実與き二石
施に物部
本閥と長連
本閥と長連
本閥すしか
拾水題のの
円準を是諸
円準を是諸
をの生正通
受引ず措ち
取揚る置よ
るに。をうを
に拘過ら
き手、取
のを、更に
上や。む
くも、

佐側藤
長秘次澤
法務ツ
總務コ
裁イ
官次房
葛西太
長、ソル
厚、太田
長安、山外
務、氏
官へ、給
片柳農
林次官
官中松
房人田
事務商、

裏面白紙

311

四 三 六 や

あこ
ると以 口 H紋起を總い想長更にしその
。に上均すい四何のに新上す目選事さくにわゝも部
しの衝るて十等一合法のる分挙でれ勵一た十そ分
た事も原高八か案う令諸恐ののあゝくつつ二もは
いを是因い時のが様の事れ宣結る職このて月か何
と二正が給間措出謫適情も傳果。
思十しなと制置來節用をめに左
う五たくをにきてを上考る利翼
。日いを受を期い凶及慮。用の
司一。るける待るりびし
令月 下。てとしがた運
部の半 各い從て職い用
御期 聞た來い員。上
諒解 鹽鐵呴るや十不
給與 間道十。組二合
解御 の、四合月理
援を こ時間には
支援 これ信に等な
拂を いよい至
切と 切り特別生別
望共 じて職員六時
する いといと差間
公表 もる差別勵
のする 不別勵

員と問行にく等
のと題わ過事か
間をはれり態の
につ四る実を補
不た十こ施悪正
安。八とす化を必
動行時とるし必要
遙政間なこたと
が機勤つとのと
あ構務たとはする
る及でかた野る
。び、らり党と
人一で、思
員般あはれる
の職員は三十%程度
人事管理上見過し得た
是正措置が成
案が正による
が一ヵ月半立
案われる。

裏面白紙

3/2

へへへ へ へへ右
整で 鈴マ鈴とマ最考置に替に附で決鈴たマに
を作次木ッ木はツ大表し付の確いあ定木もツツ
要らに遁コ遁何コの通てい際定てつに遁のコい
すれ第信イ信時イ原りよてに的おて閑信をイて
る、二次氏次閑氏因にい大実なつ、す次、氏、
も大の官一官か一でしと体施もたこる官こ一
の体原一 一さ あを考の本の「れ準」の本要
で勤因 そ れるけえ基部としに則 際件次
あ務と昨の本たの「れて準とはか具を二切はの
り時し年表年か表 ばおをの考し体る九捨要よ
、同て七を一の なつ示協え、こ的にも二ですう
本をは月も月 通 らたす議られなの○るるな
部基、頃ら十 り な。にには俸が円とに質
長壁二でつ一 に いし止よて文給でべい從問
のと九あた日 し とかまりい字額き「う來應
通し二るのの な いるり格な通をたスこい答
ちた○。は通 け うに、付かりきがにとわが
よも円 何ち れ ここ各さつ参め、切かゆあ
うのべ 時よ ば とん轟れた考たこ替らるつ
にて、 かう な にどでな。表参れえ來闇た
も、ス に ら なの認か即で考はるる昇。
補なは 依 つ 決定つちめ表抽際結給
正お非 つ い た定にたこつを象に果を
す多常 て と で 依下のてる的、で行
べ分に で い ここつ級俸、もな新あつ
きに急 あ う れのての給一のも俸るて
こ諂い あ こ が参措者切般がの給かい

裏面白紙

松ニアにいマ鉛格上マで半号行の
田かタ從るツ木付にツあ期揮わ分第の要補を
商リうもコ通を勤コる分でなか三
工一とのイ信上務イカ支けらの
次官いが氏次にし氏
工次官デうあ一官すた
工次官イこる一る場
工次官スとで勤と合時
係長以上はりがは務そい超間
ガノを時うう過差
1ルに間に万勤の
ドマかにう法務問
1ルつこで手題
しで大いと問当と
たは頗ても題をい
とを省はいを出う
いいか古え解すの
うからいよ決とは
こ出命うしい、
とそさ令よう正
にれれでうや規
ををたことりの
る全指れし方勤
のく示をたで務
で無は定わを時
は視こめけく間
工次官であるをへれてか、以

裏面白紙

も逸でとマ様下以め確商將參案通かとマ題表つが
わ祝もいツを致上て立工來考が信。をツのがて、
かしたつコ非者の機も次補表出次
るたいてイ常に上械を官正が來官
。理こい氏たは級的き一さ宗上一
由とる一不こ者を現る全つ
のけの合のは表在ざべでて然
内申で目理原こでハつきないる
に上も分、則れ職本くもいたが
けげを達アが等傍表ばの事の故
、るいはン遍を内はらとははに
台まし如バ用加谷決んし大、種
理で、何ラさ味吸して藏先々
的もこをンれし呑て言あ省に議
とをれるスズテ責済つつの申詮
認いを意を、実任足てた準上の
め。弁味生機施がす、"則け末
ら又護にず職本加べは
れ他しおる的部味きつ
る万よい次にとさもき
も各うて第や協れのり
の首ともでる通てでし
ががし平あかしなはた
あ本て表るらていを以
る表いが。今定"い階
こかるよ 度め係、制
とらのい のた長廳の

裏面白紙

う理りつ
こ由をの先
とのい理程
だ当至由來
“不慣にか
自當習要ら
分とに約聽
の全よさい
ご然つれた
の無てる所
観闇処エを
測係理う綜
はにして合
当そてあす
つの来るる
て压た“と
い力“即、
るに他ち各
かよは一省
“つ組つの
て台はと
押側従つ
さが來た
れの措
たおし置
と強きは
いくた二

マと石議の程マ石マ与石たてでがトタマ組鈴
ツい黒さここツ黒ツ實黒かの頂あな」ンツ合木
コつ部れとのコ部コ施部。本きるさすダコの通
イた長てを際イ長イ本長
氏方 い云何氏 氏部
がわかと
正 これ措 完
人確選とた置本フ今全今
事で合ががを日エ井に井
主あと、講のイ氏了給
任らにど次じ問ヴの解与
官うつう官な題アこが局
会。たし会いかラれで長
のて議とらブにきには
は組や組少ル対ては
、合人合しですお一
やに事側離あるる應
や知主がれつ反わわ話は
不れ任うるた應けはし
正て官るか。はでし
確い会さも どはて
てる議い知 うなる
一のにとれ でいる
部かおいを あ。か
の。いうい つたか。
職員 趣が論旨先 新給

裏面白紙

これてきこマあ分がけこが鈴だマイき佐とマ石
とは新たとツリ子落ると不木ろツわも藤をツ黒
で良聞いにコ得がち経に当遍うコばの法いコ部
あきにがはイる場る果つな信とイ常で務いイ長
る行談、氏。合とといも次い氏識、總ふ氏
。政話従わ又とを來れ機い出日わそ密うし本れの保見て政も政持地お府同治とからの感的いられ高でなういる官あ問事つこがる題にてと、。につ、がまをついてこく論、てはとあ議こ心責にる中の配任なよの際しあげう問申てるかだ題上お地わがにげら位し、つてれにいこいおる

にいなての官う)でま裁らようつ自分でこあた官し諜つこた信あと先つ近房てこ長てとりがる根を程てく長いれ及はがしもた本いこ誰補、懸ててめのわので正この諜非念、なに問れ措もさ參と人長合さそい管題た置知れ考にが輔法れの。理とがをつる表を、佐的るよ又者し、取ててなるこ程な。う擾とてどらいあるのう度活又な秀しはうなるらもかいの動政こなて、いけこうの。う者に治と者もこうれととは、当然ある。走間かがこの形けでい、る題ら不れスでドあう当然とと全當にタ起ラるよう補正さるい。体なよンるブ。うて的待つダとルこ過に遇て、思がと激能をや自う起もな半受る体かる。

317

裏面白紙

替ソ日に石よう調ソ頃の鉛つ次ソがとれあ者あるは1のな黒つに整1と数木い官1絶がまるとる何ル話る部て納にル記日遍て会ル対行で。同者は当然のことと、何時この再二るるに機密保持の漏とわその下働きする者も責任ある地位にあることと、早まついて真剣に考風せられ常識である
時タのの長今税關タ憶後信注譲タにわの程度に自然のことと、何時この再二るるに機密保持の漏とわその下働きする者も責任ある地位にあることと、早まついて真剣に考風せられ常識である
頃1調で日をしすか官を何時この再二るるに機密保持の漏とわその下働きする者も責任ある地位にあることと、早まついて真剣に考風せられ常識である
な氏整あ申延て氏るさはつ出期少され下て税ですくた一級、金らると一か八の下のれとも月
○者級調たい給二
○にの整困う与十
圓つ者の難決額日
べいに問な定のの
1てつ題状が七次
スのいは態な○官
か問て上はさバ会
ら題は級解れ1議
ニで差の消たセで
九あ程者さ由ン所
ニる間にれでト得税
○題つなあは支に
ていいいる支給に
はてかか給な特。です
いにこまる年によ
ースの切今題

裏面白紙

与額のの鈴官をソた方鈴れ則なソ石もソ石
とを時切木は問。で木たがさ一黒、一黒
いた々替通こはル年そ遅かあなたル部閣ル部
うまにに信れずタ末う信。ついタ長昇タ長
よた新際次を、一手い次た、一給一
うましし官知特氏当う官が又氏が氏
な年いてつ別祭こ、年そ行大
も末べ當ての止とこ末のわ体
のにす然そお手昨はが遡れの給通れそ昨
でまス切れら当年よ問及に特与りての年
はとに替はれが末く題をつ別法。來七月
をめよにこる出に承に認いのの手改
いてつなうかさ、知なめは當正は當に
。出てるい。れほしつな、は認際に各
し支べうたとてていとんおいと各省
た給きことんおいといどつるいう認められ
。さ超と。いどつるいう總たとう事て。いこ
しれ過ではう總たとう事て。いこ
かな勤務は事て。いこ
しかつ手ない實の官があ聽るでが名
れた當かはたにと。うとこにつは知ては國会
はためつ思と。いとつは承知し二つ
よそて。うとこにつは知ては國会
りのは給省如何。うとこにつは承知し二つ
賞差そ与。うとこにつは知ては國会
いの

（
一 提こマ員与上るく超がソ
バ案ちツののると了過實一
一にらコ困額でを解勤はル
氏つかイ窮はあ間に務そタ
といら氏狀公らは苦のの一
相て質一態定うずし時人氏
談は問をの。、む簡の
の今す本縕給従年所と俸
上朝る日和与つ末では給問題
適フ機來す額てにあ無と題は
當一會訪るを十際る關係は
なバをしには二し。、む簡の
機一與て役る月てこう出しされ
機關氏え頂立か分出うさして
をがらいにつにとししてれ
通いられてて上したて金各て
じなたいい廻て金各て
ていころるつ各額官いよ手
御のとんとて人の聽るつ当
返でをな思いが總がこての
事本感問わる家額如と比追
し日謝題れのには何で例加
よう午すをるで持莫な、的拂
う後る論。、ち大るこにい
。に。議 現縕な名の計なる
で本し 在つも儀点算るも
も日、 のたのにはさも
フの又 職給によ全れの

（以上をもつて会談を終る）

別添付文

Note Verbal

January 25, 1949

Readjustment after the recomputation of new pay

In accordance with the provisions of the New Pay Law and the regulations issued thereunder, and in conformity with the various notifications previously made by the New Pay Administrations Board, each of the government departments have been making strict recomputation of the "unauthorized pay" within the month of January. The strict performance of such pay adjustment, however, has demonstrated that a readjustment of new pay for the workers of various departments is considered necessary.

† It is earnestly desired therefore that an announcement be made on January 25 to the effect:

- a. That such aspect of the application and operation of New Pay Law as can hardly be justified will be readjusted promptly in time for February payment;
- b. That the unbalanced situation among various Government departments caused by the introduction of 48 hours of work will be ironed out as soon as possible.

裏面白紙

32/

0000 0358

裏面白紙

(別添第三号)

Any exception will have to be referred to the Office of New Pay Administration with full background information and specific and detailed request for the execution they are seeking.

如何^{なほ}か報告^{報告}書類^{書類}あつても、新給與實施本部に對し、それに関する十分な経緯の説明資料を要体的且つ詳細な要求書とを提出して、その承認を求めなければならぬ。